

英 語 科

主任：泉川 美樹

(1) 今年度の目標

- ① 基礎・基本事項の定着と高い英語運用力を養う。
- ② 積極的に英語で自分の考えを表現したり、英文で書いたりする姿勢を養うとともに、他の人の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言ったり質問したりする能力を養う。
- ③ 自主的学習習慣を養う。

(2) 主な取り組みの計画

目標①についての主な取り組み

- ア 単語集「システム英単語」を1・2年生の定期試験と学力テストに出題し、長文読解のための語彙を増強する。
- イ 1年生の英語表現Ⅰで、出席番号に基づき20人ずつに分けた少人数クラス授業を実施する。
- ウ 2年生の英語表現Ⅱで、2クラスを3つ（習熟度の高いクラス1つと標準的なクラス2つ）に分けた習熟度別少人数クラスで授業を実施する。クラスの実情に応じて授業内容も少し変化させる。
- エ 3年生は教科書だけでなく多くの演習問題を授業で扱い、大学入試等の実践に即した力を身につけられるようにする。リスニング教材を授業に取り入れ、センター試験に対応する。
- オ 英語運用能力の到達度を計るため、英語検定など外部試験を奨励する。

目標②についての主な取り組み

- ア 1年生ではALTによるインタビューテスト（1学期）、Show & Tell（2学期）、ミニディベート（3学期）を実施し、スピーキングの力を養う。また、夏休みには英文エッセイを書かせる。
- イ 2年生では週末課題やエッセイライティングによって英語の運用能力を伸ばす。

目標③についての主な取り組み

- ア 1・2年生では斯文土曜塾や週末課題で計画的な学習の支援をする。また家庭学習用副教材を試験に出題し、家庭学習の充実を図る。
- イ 3年生で夏季休業中の課外を講座制にし、各自の目標に合った講座に参加できるようにする。

(3) 成果

目標①について

1・2年生の定期試験と学力テスト、基礎力テストに「システム英単語」から出題し、語彙力増強に役立てた。成績が下位層の生徒もまじめに取り組む姿勢が見られた。また、1・2年生の英語表現で少人数クラスの授業を行うことにより、生徒全体に目が届きや

すく、ペアワークがしやすかった。習熟度が高いクラスは授業の進度を早くすることができるので、投げ込みで発展的な問題を解かせることができた。3年生は授業に大学入試問題やセンター演習（リスニングも含む）を取り入れることにより、大学入試に対応する実践力を養った。

校内で取りまとめた第3回実用英語技能検定申込には10名の生徒が申し込んだ。

目標②について

1年生でALTによるインタビューテスト（1学期）、Show & Tell（2学期）、ミニディベート（3学期）を実施し、スピーキングの力を養った。夏休みには英文エッセイを書かせ、優秀な作品は全国コンテストに応募し、4人も入選者が出た。

2年生では少人数クラスである英語表現Ⅱの授業において添削が早く行なえるため、英作文を書かせる機会を多く与えることができた。コミュⅡでは各レッスンのまとめとして自分の意見を英語で書かせ、他の生徒と共有させた。

目標③について

1, 2年生の斯文土曜塾（1年36名、2年19名参加）で読解演習を継続して行い、参加した生徒は長文問題に積極的に取り組めるようになった。家庭学習用副教材については、出題範囲を年度当初に提示し、計画的に学習する習慣の定着に役立った。

3年生では夏季休業中の課外を希望制にし、各自の志望校に対応した講座を開設して入試問題演習を行った。生徒からは好評で、センター試験や国公立2次に向けての力をつけるのに役立った。

（4）課題

目標①について

リスニングに苦手意識がある生徒がいるので、週末課題にリスニングを取り入れたり、授業でディクテーションを行う。また、1, 2年生には教科書準拠のCDを持たせているが、家庭学習での活用法を授業でもっといねいに指導する。語彙力は英文を読むために不可欠であるので、定期試験や学力テストだけでなく授業でもこまめに小テストを実施し、確実に定着させる。

目標②について

少人数制授業については、一部の生徒は必要性を感じていないので、毎時間まとまった量の英作文を書かせる、他の生徒と意見を共有する、グループで完成させて発表する課題を与えるなど、少人数制の強みを生かした活動を増やす。

目標③について

副教材の単元によっては難度が高いものがある。課外や授業で取り上げて説明し、英語に苦手意識がある生徒もあきらめずに家庭学習を続けられるよう支援する。

